

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	白石町立有明東小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「業務改善・教職員の働き方改革の推進」以外は、どの項目においても、計画に沿って年間しっかり取り組むことができ、どの項目も「おおむね達成できている」以上の評価となった。 ・日々の協働的な学びにつながる対話活動を取り入れた授業の実施や特別支援教育の取組など、専門性と意識を向上させながら取り組むことができた。
2 学校教育目標	生きる力を身に付け 学校・家庭・地域の思いを受け継ぐ 東っ子の育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 進んで学ぶ子ども【知】確かな学力・知恵を磨く(表現力) ② さわやかな子ども【徳】やさしい心・人と関わる力を培う(自己肯定感・コミュニケーション力) ③ たくましい子ども【体】健康で元気な態度を育む(心の安定)

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
----------------------	-------------	---------------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	○様々な場面での交流活動の充実と表現力の向上	○「協働的な学びにつながる交流活動を取り入れた授業を行っている」の質問に対して肯定的な回答をする職員の割合を80%以上にする。	・協働的な学びの場を醸成できる課題やめあての在り方を、教材研究・児童理解の双方から探る。また、研究授業や理論研究を通して、具体的な授業の姿を確立していく。	B	・「協働的な学びにつながる交流活動を取り入れた授業を行っている」の質問に対して肯定的な回答をする職員の割合は87%であり、目標を達成している。しかし、「よくあてはまる」と答えた職員は27%に留まった。今後児童学力向上対策検討・改善委員会を受けた重点取組組みのチェックシート等を活用し、夏季休業中に実施した学力向上対策の重点項目に取り組んでいくよう、定期的に振り返る機会を設定する。	A	・「協働的な学びにつながる交流活動を取り入れた授業を行っている」の質問に対して肯定的な回答をする職員の割合は83%となり、やや減少したが目標としている80%は達成した。「よくあてはまる」と答えた職員は27%から42%へと大きく増加した。児童学力向上対策検討・改善委員会を受けた重点取組組みのチェックシート等の活用し振り返りを実施したことや、算数科の授業を全員公開し、研修を深めたことが、このような結果につながったと考える。今後も、様々な場面において協働的な学びにつながる交流活動を取り入れることができよう、研修の場を計画的に計画していく。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分や友だちのよさを認め、仲良く活動することができる」という児童を80%以上にする。	・自分のよさに気付き、他者への思いやりの心を育て、仲良く活動することができるような取組や指導を工夫する。	B	・「児童用アンケートにおいて、自分のよさに気付いている児童は78%、友だちのよさに気付いている児童は97%であった。今後も、日常の活動に加えて全校での取組である「キラキラカード」を推進していくことで、自他のよさに気付くことができる児童が増えるように指導を継続していく。	A	・自分のよさに気付いている児童は82%と4%増加した。友だちのよさに気付いている児童は93%と4%減少したものの、高い水準である。全校でキラキラカードを置いて校長先生からのキラキラカードの紹介を放送でお願いしたことで、自己肯定感が大変高まった。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○小さないじめ事案であっても見逃さないように、報告・連絡・相談をしようとした職員の割合を100%にする。 ○「学校は、いじめをしない思いやりの心が育つような教育を行っている」という保護者の割合を60%以上にする。	・小さないじめ事案であっても、関係者の話し合いやケース会議を行い、事案を把握するように務める。 ・児童理解連絡会を定期的に行い、職員全体で共通理解を図る。 ・児童観察や定期的なアンケートで実態を把握し、問題行動やいじめに迅速に対応する。	B	・いじめ事案が発生した場合の「報告・連絡・相談」を徹底し、管理職を含めた組織的な対応をすることで素早い解決につながった。職員に対するアンケート結果も100%であった。そのことが保護者アンケートでも4%の肯定的な評価であったが、「よくあてはまる」は27%であった。 ・児童理解連絡会を定期的に行うことで、職員全体での共通理解を図ることができた。 ・「このアンケート」などを実施することで、児童の実態を把握することができた。聞き取りの時間を確保することが今後の課題である。	B	・管理職等への「報告・連絡・相談」を継続して行ったことで、いじめ事案が発生した場合に素早い対応ができ、職員に対するアンケートでも100%を維持することができた。保護者アンケートでも86%と全体的には評価があったが、「よくあてはまる」と評価した保護者は18%に下がった。保護者の意識を高めるような取組を行うのが今後の課題である。今年度実施した人権教育や家庭教育講演会等を来年度も継続して行い、学校での取組を連携等で紹介していきたいながら、意識の向上をはかりたい。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒80%以上にする。 ●「将来の夢や目標を持っている」という肯定的な回答をした児童生徒80%以上にする。	・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」という質問に対して96%の児童が肯定的な回答をしていて、先生からよいところを褒められてもらっていると感じている。 ・あなたは、将来の夢や目標を持っていないが、2学期以降の行事のふり返りでキャリアパスポートを活用したり、外部講師を積極的に招請し、多様な考え方に触れさせたりしていく。そして、自分の成長を振り返り自分の可能性を見つけることができるように指導を行っていく。 ・キャリアパスポートを活用し、夢や目標に向かって努力する気持ちを高めるような指導を行っている」の質問に対して80%の職員が肯定的な回答をしているが、「よくあてはまる」の回答者はなかった。	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」という質問に対して96%の児童が肯定的な回答をしていて、先生からよいところを褒められてもらっていると感じている。 ・あなたは、将来の夢や目標を持っていないが、2学期以降の行事のふり返りでキャリアパスポートを活用したり、外部講師を積極的に招請し、多様な考え方に触れさせたりしていく。そして、自分の成長を振り返り自分の可能性を見つけることができるように指導を行っていく。 ・キャリアパスポートを活用し、夢や目標に向かって努力する気持ちを高めるような指導を行っている」の質問に対して80%の職員が肯定的な回答をしているが、「よくあてはまる」の回答者はなかった。	B	・「先生からよいところを認めてもらえる」と感じる児童は94%であった。2%減少したものの、90%以上の高い割合を継続しているが、今度も日頃の声掛けや称賛を続けていく。 ・「将来の夢や目標をもっている」という児童は、変わらず78%であった。外部講師を積極的に招請したことで、多様な考え方に触れ、選択肢の幅に広がりが見受けられる。 ・キャリアパスポートの活用に対して肯定的な回答をした職員は75%と減少したが、「よくあてはまる」は8%増加した。年度末の活用でも高まりが見られる。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○次の時間の準備をして、休み時間を過ごすことができる児童の割合を90%以上にする。 ○進んであいさつができる児童の割合を90%以上にする。	・月の生活目標と関連させた指導を行う。 ・学年に応じた挨拶の指導をする。また、定期的な振り返りの時間を設け、意識付けを行う。 ・「すすんで気持ちのよいあいさつができる」の質問に対しては、93%の児童が肯定的な評価だったが、実際に「すすんで」気持ちのよい挨拶ができていない児童の割合は低いと考えられる。今後も各学年の発達段階に応じた指導を行っていく。	B	・月の生活目標と関連させた指導や定期的な振り返りの時間の確保。「あいさつ週間」の設定をすることによって、児童の意識は高まりつつある。 ・「次の時間の準備をして、休み時間を過ごすことができる」の質問に対して89%の児童が肯定的な回答をしているが、数値目標には達していない。今後も学年の実態に応じた指導を継続して行う必要がある。 ・「すすんで気持ちのよいあいさつができる」の質問に対しては、93%の児童が肯定的な評価だったが、実際に「すすんで」気持ちのよい挨拶ができていない児童の割合は低いと考えられる。今後も各学年の発達段階に応じた指導を行っていく。	B	・「次の時間の準備をして、休み時間を過ごすことができる」の質問に対して93%の児童が肯定的な回答をしており、目標を達成している。よい習慣を続けていけるよう、職員全体で見守り、指導を続けていきたい。 ・中間評価の振り返りより、「すすんで」気持ちのよいあいさつは、どのようなあいさつの仕方なのか、児童の発達段階に応じた指導を行ってきた。年度末のアンケートでは、89%と中間評価を下回ったが、これまで指導を行ってきた中で、児童の中によりよいあいさつについての意識が高まった結果だと考える。また、保護者へのアンケートでは、学校のあいさつに関する指導について肯定的に捉える割合は、中間評価の96%から98%と上昇している。これからは、それらの結果や分析を踏まえたうえで、児童の自己評価も高めていけるようにしたい。
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間 年間360時間)を遵守する。	・会議などの話し合いを効率的に行い、事務作業の時間を確保する。 ・月の時間外在校時間が45時間を超える職員の割合25%未満。	B	・連絡会の発言予定者を事前に決めたり、また発言予定時間を決めたりして会議の時間削減に務めた。 ・会議や研修を計画的に行い、業務の効率化を図ることができた。 ・月の時間外在校時間が45時間を超える職員の割合は約31%で目標の25%を超える結果となった。	B	・講師を招いて、ワークライフバランス研修や行事の見直しを図るための研修を行った。また、学校行事検討委員会を持って、行事など業務の見直しを行った。 ・会議などの話し合いを効率的に行い、事務作業の時間を確保した。 ・中間評価以降、月の時間外在校時間が45時間を超える職員の割合は約34%で目標の25%を超える結果となった。
●特別支援教育	○職員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門的支援や合理的配慮の提供が向上した教員の割合を100%にする。	・特別支援に関する研修会を実施する。 ・全職員での児童理解・情報共有を図り、必要に応じてケース会議を開催する。 ・専門家や専門機関との連携を図る。	B	・夏季休業中の特別支援教育エリリーダー招聘の研修会を夏休みより中止したが、必要に応じて特別支援学校の巡回相談やエリリーダーの支援を仰ぎ、その都度専門性を高める機会を設けた。 ・支援が必要な児童のケース会議を開いて対応の仕方等について共通理解を図り、指導体制を整えることができた。 ・「学校は子どもの特性に応じた指導を行っている」のアンケートでは90%の保護者が肯定的な評価であったが、「よくあてはまる」は17%であった。	A	・特別支援学校の巡回相談を受けて、専門的な指導や支援のあり方について学ぶ機会を得ることができた。エリリーダー招聘の研修会は、時期が合わずに実施できていない。 ・支援が必要な児童のケース会議を行い、支援体制を整えながら適切な対応につなげることができた。 ・「学校は子どもの特性に応じた指導を行っている」のアンケートにおいて96%の保護者が肯定的な評価をし、「よくあてはまる」が27%と増えた。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組内容		具体的取組	中間評価		最終評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果
○郷土への愛着を高める教育	○ふるさと「白石・有明」の「人、もの、こと」に目を向けさせる教育活動の充実	○地域への好意的な回答をする児童の割合を70%以上にする。 ○「地域と連携した教育を推進している」という保護者及び職員の割合を60%以上にする。	・活動の様子を掲示し、振り返り共有したりする。 ・地域の協力者には感謝の気持ちを伝え、双方向の活動にする。	B	・あなたは、地域のこと(人・もの・こと)が好きですか」の質問に対して、96%の児童が地域へ好意的な回答をしている。 ・「地域と連携した教育を推進している」という職員の割合は93%と目標を達成している。しかし「よくあてはまる」と答えた職員は13%に留まっている。 ・地域と連携した教育を計画的に実施し、それを確実に児童や保護者、地域の方へフィードバックできるよう、校長室前に活動紹介コーナーを設置し、周知を図る。	A	・あなたは、地域のこと(人・もの・こと)が好きですか」の質問に対して、96%の児童が地域へ好意的な回答をしているように、高い水準を確保することができた。 ・「地域と連携した教育を推進している」という職員の割合は100%となっている。多くの職員が積極的に地域と連携した教育活動に取り組んだ結果、「よくあてはまる」と答えた割合は13%から50%に上昇した。 ・校長室前の活動紹介コーナーは、他学年の活動を児童、職員、保護者、地域の方も知る機会となった。

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の協働的な学びにつながる対話活動を取り入れた授業や全員公開授業などを行い、教員の専門性の向上と児童の学力向上を意識した取組ができた。 ・年2回の人権集会やキラキラカードの取組など、児童が自他を認め、自己肯定感を高める取組ができた。 ・支援が必要児童や対応が必要な事象については、素早くケース会議を開き、組織的に丁寧に対応することができた。 ・地域人材や外部講師を招いて、地域への思いや働く目的、また、専門的な話を聞くなど子どもたちが多面的に学ぶ取組ができた。 ・業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減、学校統合に向けた準備を並行して計画的に進めていく。
-----------------------	--